

ボートレースの話題が集まるメディア向け情報誌

Propel

プロペル

Vol.39 ボートレースPR情報誌

ファミリーでワクワクできる
BOAT RACE

[ママはボートレーサー]
土屋千明選手・浜田亜理沙選手
インタビュー

[ファミリーで楽しめるキッズパーク]
ボートレース戸田／ボートレース下関

・全国ボートレース甲子園レポート
・ナイターレースの世界・ボートレース大村
・ボートレースアンバサダー植木通彦の
イチ押しYoung BOAT RACER①

ファミリーでワクワクできる BOAT RACE!

ママは
ボートレーサー



ファミリーでワクワクできる
BOAT RACE!



ママはボートレーサー

産休復帰後は、さらにレースに集中できるようになりました。

近年、人気実力ともに活躍がめざましい女子ボートレーサー。今年の6月には、ボートレース界の「グレートマザー」のニックネームで親しまれている日高逸子選手が、女子レーサーで史上初の生涯獲得賞金10億円を突破しています。その中で今回は、子育てもボートレーサーとしても第一線で活躍中の土屋千明選手と浜田亜理沙選手にお話を伺いました。お子さんを連れてのインタビューは、普段のレース場では見られない、ママとしての表情が垣間見えました。

「小さいころからボートレーサーになりたいと思っていました」(土屋選手)
「養成所の試験合格後に初めてボートレースを見に行きました」(浜田選手)

Q1:ボートレーサーになりたいと思ったきっかけを教えてください。

土屋 父がオートレーサー(土屋栄三選手)で、オートレースは小さいころから見ました。その父がボートレースが好き

で、レース場にもよく連れて行ってもらいました。間近でボートレーサーを見て「カッコいいな」と思い、何となく小さいころからボートレーサーになりたいなと思っていました。試験は5回目で合格、その思いが実現しました。



浜田 私は大学に通っていたんですけど、特になりたい職業がなかった。その時に兄の友人の三宅健太さんが、ボートレーサーになってデビューした話を聞いて「そんな職業があるんだ」と思ったのが最初です。地上波のテレビではなかなか映らない競技なので、ボートレースを知ったときは新鮮でした。それがきっかけでボートレースを初めて知って「やってみようかな」と思ってボートレーサー養成所の試験を受けました。2回目で合格して、試験に受かってから初めてボートレースを見に行っただけです。で、この競技をやるんだと実感しました(笑)。

結婚してもボートレーサーは続けていこうと思っていました

Q2:結婚して家族ができて、そしてお子さんが生まれて、ボートレーサーとしての気持ちの変化はありますか。

土屋 ボートレーサーは頑張ったら頑張っただけお金がもらえる職業。ものすごくやりがいがあります。結婚してもレーサーは続けていこうと思っていました。男の人と対等に戦える競技は他にないし、男の人と一緒にレースをして1着を取ったときは嬉しさも大きいですからね。私は子供が生まれてレースに復帰したときは「絶対にケガはできない」と思ったんですが、産休後に成績がメチャクチャ上がったんですよ。デビュー後初優勝もできました。子供が生まれる前もレースには集中しているつもりだったんですけど、昔より今の方が一歩、一歩、レースに集中できていると思います。レース中は子供に1週間会えないし、さみしい思いをさせている分、「頑張らなきゃ」と思うメンタル面が大きいのかも。ケガはできないけど、冷静に判断してレースに臨むように心掛けています。



浜田 私は結婚したら支部は移動する(広島支部*1から埼玉支部へ)つもりでしたし、辞める理由もなかったです。みんなにもすごく言われるんですけど、子供を産んでから成績自体は変わっていないけど、優勝できてないんですよ。何だか「子供がいるから…」と逃げ道を作っている感じがして、レーサーとしての私は弱くなってしまったような気がします。子供のことを考えて月1、月2の幹旋だと間が空くし、レースのリズムが作りにくい。中2、中3日間ぐらいの感覚でコンスタントに出た方がレースには集中できます。でも、子供にはさみしい思いをさせるじゃないですか。ボートレースを頑張りたい気持ちもあるのですが中途半端なんです。それが悔しい。

*1= 公益社団法人日本モーターボート選手会の支部のことで、全国に18の支部があります。ボートレーサーは全員、選手会に所属しています。

ボートレース場に託児所、業界に産休手当があったら…(笑)

Q3:子育て中の母として、ボートレースにこれがあればいいなという要望はありますか。

土屋 託児所があったら欲しいですけど(笑)。もし、レースが終わった後の夜に子供に会えたとしたらレースにならないですよ。すごく会いたいけど会ったらレースできなくなっちゃう。今、考えると産休中のお手当とか欲しかったかもしれない。仕事はしてないけど、税金とかどんどん引かれてどんどんお金がなくなった。お金が全然なくなっちゃうんですよ(笑)。

浜田 私はレース場などのイベントによく呼んでいただきますが、旦那さん(中田竜太選手)は仕事で大体いなくて、子供と2人きりのときが多い。イベントに連れて行けるなら連れて行きたいです。毎回、連れて行けるかどうかを聞いているんですけど、イベント中に子供を見てもらえる方がいない場合は、そのイベントを断ったりします。一緒に連れて行くことができれば、すごくありがたいなと思いますね。



 **メンタルを強く持って、怖がらないこと**

Q4:ボートレーサーを目指す女性に、必要な心構えやアドバイスはありますか。

土屋 心構えは女性とか男性とかは関係なく一緒だと思います。今の小学校や中学校の先生や生徒は昔の時代と違って“さとり世代”と言われてはいますよね。でも、ボートレースの業界はまだ昭和の時代が残っていて体育会系ですし、厳しい上下関係もあります。そういうのをおじいちゃん、おばあちゃんから話を聞いておいた方がいいと思います。私が所属している群馬支部は上下関係がしっかりしているけど、それほどでもない支部もあります。上下関係がしっかりしているのは体育会系だから、当たり前なことだし、レースにはケガや命に関わることもあったりする。先輩に厳しく教えてもらって、後輩に厳しく指導するのは必要なことだと思います。

浜田 埼玉支部の上下関係は厳しい支部と比べると緩いところがあるかも(笑)。でも、しっかりとしますよ。私は、ボートレーサーの心構えとしては、臆病じゃなければ大丈夫だと思います。ボートレースはケガもあるし、場合によっては命に関わる競技です。だから、臆病になったらダメ。私はケガをしても、次のレースを怖いとか思わないんですよ。いけない部分ではあるんですが…。“怖い”と思う人はこの業界には入ってこないと思うんですが、これが一番大事な。メンタルを強く持って、怖がらないことです。



ボートレーサーとして 「お母さんはかっこいい!」と 思われたい。

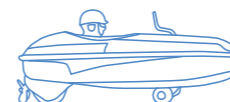


 **成績も右肩上がり、さらに上を目指して**

Q5:母としてボートレーサーとしてこれからの目標を教えてください。

土屋 私は子供を生んだ後にレースに復帰してから、初優勝もできた。ちょっとずつなんですけど成績も右肩上がり中なんです。今のリズムを継続してちょっとずつ上を目指して行ければいいと思っています。

浜田 私は子供がお母さんがボートレーサーという職業をしているという認識が出てきたときに「お母さんはかっこいい!」と思われたいです。今も何となくは分かっていると思うんですが、もっとはっきりと分かってもらいたい。戸田で旦那さんが優勝戦に乗ったりすると子供と2人で迎えに行きます。そこで旦那さんが優勝したことがあって、優勝のウィニングランで旦那さんが子供に手を振ってくれた。今度は私が、優勝のウィニングランで子供に手を振りたいです。



プロフィール



土屋千明(つちや・ちあき)

1982(昭和57)年6月29日生まれの37歳。
156cm、47kg。血液型はO型。選手養成92期生。
2003年5月 ボートレース桐生でデビュー。
2018年5月 ボートレース桐生で初優勝。
二児の母。
夫はオートレーサーの森村亮選手。
弟はボートレーサーの土屋智則選手。



浜田亜理沙(はまだ・ありさ)

1988(昭和63)年3月19日生まれの31歳。
162cm、48kg。血液型はB型。選手養成104期生。
2009年5月 ボートレース宮島でデビュー。
2012年2月 ボートレース児島で初優勝。
一児の母。
夫はボートレーサーの中田竜太選手。



ファミリーで楽しめるキッズパーク

ボートレース場をファミリーの集う場所にと、全国のボートレース場に本格的なキッズパークがオープンしています。これまで子供専用の部屋はありましたが、最近は、今流行のボルダリングやスケートボード用のパークなども併設するようになりました。今回は、「ボーンランド」と提携したあそび場施設「モーヴィ戸田」「モーヴィ下関」を紹介します。

ボートレース戸田 屋内遊具が充実のキッズパーク「モーヴィ戸田」



若い子育て世代に「もっとボートレース場のことを知ってもらいたい」と、場内にあった子供の遊び場をリニューアルして、2019年2月に「BOAT KIDS PARK モーヴィ戸田」が誕生しました。

生後6ヵ月から12歳の子供たちが、自然に身体を動かし、挑戦心がどんどん湧いてくる「あそび」の仕掛けがたくさん設置されています。それぞれの成長過程に合わせてベビーゾーン、チャレンジゾーン、アクティブゾーン、アウトドアゾーン、ライブラリゾーンがあります。



ここでは、知らない子供どうしが自然に遊びだしたり、ママたちが知り合ったりと多用にコミュニケーションを生み出しています。

営業時間は通常10時00分～16時00分。入場料は、平日は子供300円、大人300円(レース開催時は200円)。土日祝日は70分完全入れ替え制で、子供300円、大人300円(レース開催時は200円)。

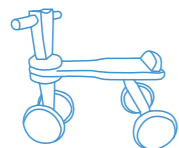
ボートレース下関 屋外型キッズパーク「モーヴィ下関」

日本最大級の屋外遊び場「BOAT KIDS PARK モーヴィ下関」が2019年4月に誕生しました。屋外での遊びは、子供たちにたくさんの発見を与えてくれます。そんな屋外につくったチャレンジゾーン、噴水広場、アクティブゾーン、ベビー・トドラーゾーンは、子供の発達段階に応じた「遊び」の仕掛けをたくさん取り揃えています。

自然に身体が動き出し、身体を動かすことの楽しさに触れ、挑戦心がどんどん湧いてきます。さらに、子供の発達と遊びについて学んだプレイリーダーが、親子の遊びをサポートしてくれるので安心です。

営業時間は通常14時00分～17時00分。入場料は、平日は子供300円、大人300円。土日祝日は10時00分～13時00分と14時00分～17時00分の完全入れ替え制で、子供300円、大人300円。

※レース開催時の大人料金は入場料を含む。



全国ボートレース甲子園レポート!



今年から新設され、47都道府県の代表者が郷土の誇りを胸に激闘を繰り広げたボートレース浜名湖「GⅡ第1回全国ボートレース甲子園」は2019年7月29日、最終日12Rで優勝戦が行われ、石川県代表の今垣光太郎選手の優勝で幕を閉じた。

優勝戦はチルトを3度に跳ね上げた4号艇の茅原悠紀選手が6コースを選択。労せず4カドを手に入れた今垣選手が中間整備で超抜モーターに“生まれ変わっていた”23号機のパワーで豪快な捲りで快勝。中学3年間は野球部に所属しながらも補欠だったが、ボート界の“甲子園”では4番打者の活躍ぶりで初代王者に輝いた。表彰式では、京都・西陣織の中でも最も歴史のある「つづれ織り」の技法で織られた深紅の大優勝旗をBOAT RACE振興会の小高幹雄会長から手渡され、

勝利の余韻に浸った。この優勝旗は、夏の高校野球の大優勝旗を作った職人さんたちが制作している。

注目を集めた第1回大会は開会式から大いに盛り上がった。生演奏の入場曲が流れる中、プラカードを持った先導役に続いて北海道代表の三浦敬太選手から順番に1人ずつ入場行進を行った。また地元・静岡県代表で選手代表も務めた徳増秀樹選手の“甲子園球児”さながらの選手宣誓もよかった。「44歳であんな大役を任されることは光栄だし、力いっぱいやらせてもらった」と笑顔で振り返っていた。ほかにも、始球式の代わりにボートレースアンバサダーの植木通彦さんのオープニングランが行われるなど、様々な趣向を凝らした大会だった。6日間の総売上は62億9253万3300円で目標の55億円を超え、大成功に終わった。

GⅡ初出場だった多田有佑選手(山形)、金子和之選手(新潟)、立具敬司選手(和歌山)は残念ながらレースで1着を取ることは叶わなかったものの、さらなる成長を果たし、来年もこの舞台へ帰ってきてもらいたい。



ナイターレースの世界

長崎空港から近く、豊かな食材があふれる大村「発祥地ナイター」

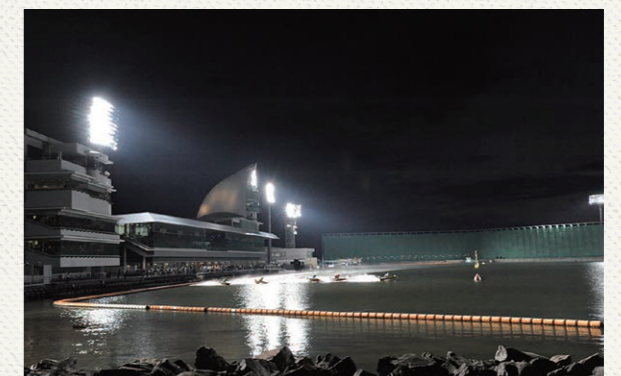
2018年9月から全国7番目のナイターレース場として新スタートを切りました。一般公募でつけられた名称は、ボートレース発祥地のちなんで「発祥地ナイター」です。LED照明を使っており、ナイター場の中でも明るさはトップクラスです。ナイター開催に合わせて対岸に防風壁を設置したことで、季節風の影響も少なくなっています。

レース場にあるフードコートは、佐世保バーガー、皿うどん、アゴ出汁ラーメンなど、ご当地グルメを楽しむことができます。レース場の前に広がる大村湾は、天然の生け簀と呼ばれており、冬のなまこは大村の名物です。

長崎空港、ハウステンボスも近くにあり、家族連れで大村ボートを訪れる楽しみがあります。遠方から大

ボートレース大村

村ボートに来るお客さんのために、宿泊クーポン券や交通費キャッシュバックのサービスもあります。



ボートレース大村

〒856-0834

長崎県大村市玖島1-15-1

<http://www.omurakyotei.jp/>





4927

関野 文

せきの あや

H5.11.1 生 大阪
149cm 45kg O型

ボートレースアンバサダー植木通彦の

イチ押し

Young BOAT RACER^①

関野選手のお父さんは、現役で活躍している倉谷和信選手です。現役のときはSGやGIで何度も対戦してきました。内寄りからスピードのあるターンがすばらしかったですね。関野選手もお父さん譲りのスピードがあります。最近、差しの勉強を始めたようですが、これで走りのバリエーションがさらに増えてくるでしょう。これまで何度も優出しています。自在に攻めることをマスターすれば初優勝の日も近いと思います。

【植木通彦プロフィール】

現役時代は最高峰のレースであるSG(スペシャル・グレード)で5年連続の優勝を飾るなど、圧倒的な強さで「艇王」と称されたトップレーサー。数々の記録と名勝負を残し、約20年間の現役時代の獲得賞金総額は22億6000万円を超え、2007年に39歳の若さで惜しまれつつ引退。引退後は、ボートレーサー養成所(旧やまと学校)の校長を務め、2018年からはボートレースアンバサダーとして、ファンとの交流など、活躍の場を広げ、ボートレースの普及に尽力している。



植木通彦
オフィシャル
ブログ



BOATRACE インフォメーション

プレミアムGI 第6回ヤングダービー

9月18日(水)~9月23日(月)
ボートレース三国



KYODO NEWS CUP 6th ヤングダービー
YOUNG DERBY

若手レーサーのナンバーワンを決めるレース。
2019年9月1日時点で、満30歳未満の勝率上位レーサーが集結します。

日本財団の紹介



日本財団に関する情報はこちらから ▶ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>
日本財団会長 笹川陽平ブログ ▶ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。
年の三分の一を海外活動に充て、
海外情報や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。

日本財団会長の
笹川陽平ブログ



取材の申し込み・お問い合わせはこちらまで



BOAT RACE 振興会
Boat Race Promotion Association

広報部 広報宣伝課

〒108-0073
東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館

TEL 03-3451-0501 FAX 03-3451-0429

BOAT RACE 振興会ウェブサイト
▶ <http://www.boatrace-pr.jp/>
BOAT RACE オフィシャル web
▶ <http://www.boatrace.jp/>

BOAT RACE
オフィシャル Web



「ISO/IEC27001:2005」を
認証取得

BOAT RACE 振興会は、2010年7月25日付で、
全部門を対象とした情報セキュリティマネジメント
システム (ISMS) の国際認証基準
「ISO/IEC27001:2005」を認証取得しました。